



# まいろっさ

## 第2号

真宗大谷派（東本願寺）  
小松大聖寺教務所

〒923-0904  
小松市小馬出町26  
TEL：0761-22-0555

【発行者】  
小松大聖寺教務所長 保木 悦雄

【編集】  
小松大聖寺教区教化委員会

昨年、小松大聖寺教務所(常盤会館)にて行われた帰敬式

8面

6・7面

5面

2・3・4面

教区からのお知らせ  
聞法会のご案内など

白山市真成寺住職 杉浦真信さん

法話のページ  
**函蓋相称**

令和6年  
能登半島地震  
について

受式者  
インタビュー

特集

帰敬式  
kikyoshiki



滋野井光さん

帰敬式の願い  
ききょうしぎ  
能美市稱佛寺住職

特集  
**帰敬式**  
 kikyoshiki

**帰敬式の願い**

小松大聖寺教区第2組

稱佛寺 滋野井光住職

● 帰敬式は「終活」の一環？

以前、八十歳に近い男性の門徒の方に「おかみそりをお受けになりませんか」とお勧めしたとき、即座に「そんな気はありません。当分死ぬつもりありませんから」というお返事が返ってきました。

また同様に七十代の女性におかみそりをお勧めしたら「そろそろ受けておかないといけないとは思いますが、受けると却って早く死ぬことになるような気がして」というお返事が返ってきたこともありました。

どちらの方にも共通するのは、おかみそり（帰敬式）を自分が死んだ時のための準備としてしか考えてい

ないということ。そしてそのような考え方は決して珍しいものではなく、同じように考えている人はかなりの割合でおられるのではないかと思えます。

私は当教区の帰敬式で法話をする時、最初に前記のことをお話します。そして続けて、帰敬式を受けることは決して自分のお葬式の準備をすることではないし、法名も亡くなった方（死人）に付ける名前なのではないということをお伝えします。その上で改めて、帰敬式を受けることの意味についてお聞きいただきます。帰敬式を終活の一環のように考えて受式される方には最初にはっきりと「そういうことではないのです」とお伝えしなければならぬと思えます。



● 「本当の終活」として

「終活」という言葉の意味も曖昧で、自分の生涯の後始末の意味で使われています。遺産相続の取り決めとか、溜め込んだ品々の断捨離、葬儀についての希望、といったことが内容のようです。このような意味の範疇で帰敬式を受け取っていただきたいくはないので、私は敢えて「本当の終活」という言い方をすることがあります。

それは、人生の最期を迎えるその時までをどう生きるか、特に「生き尽す」という生き方に出遇えるかどうか、ということをお伝えしています。

先般宗派から出された、宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」について、その願いとして「私は、この地、この時に生を受けている。このことを精いっぱい尽して生きたい。」という文言が記されています（「慶讃テーマとその願い」）。受けがたく

して受けたこの身を「精いっぱい尽して生きる」、生き尽すことのできる道を求めるということが「本当の終活」ということが、私が表現したいことです。そしてそれは永らく「後生の一大事」という言葉で蓮如上人の御文に示されてきたことの内容と重なってくるように思います。

● 根源的要求

「後生の一大事」という言葉を聞くと、それは死んでから後の話であって、いまの生活には関係がない、と受け取られがちです。しかしそうではなくて、今生に悔いの残らぬ生き方ができるかどうかという、まさにいまの生き方に焦点が当てられている言葉です。

後生の一大事とは、極楽に往生する者になれたかどうか、信心をいただいたと言えるかどうか、ということなのでしょうが、そのことが問われる背景には、授かったこの身を「精いっぱい尽して生きたい」という、私たちの根源的要

求と呼ぶべきものがあります。誰もがこの要求を抱えて生きています。ただしこの要求には、エネルギーはあっても、方向が定まっていません。求める思いはあっても「結局、どうすればいいのだろう」ということで終わってしまいかねないところがあります。

浄土真宗の教えは、私たちの根源的要求に対して「念仏して浄土に往生すべし」という方向を与えてくれています。阿弥陀の世界に目覚め、阿弥陀の世界に生まれたという願いに生きること、それが私たちの根源的要求に真に応える道であり、だからこそ仏弟子になることが呼びかけられているのです。

●法名が現すこと

帰敬式を受けることによって授けられる「法名」は仏弟子としての新しい名前です。新しい名前が付けられるということは、その人の中に新しいのちが誕生したことを意味しています。決して、亡

くなった時に必要になる名前なのではありません。世間の法（ものの見方、考え方、感じ方）しか知らず、そのみに拠って生きてきた者が、阿弥陀の法に出会い、改めて自身が抛るべき法としてそれ生き始めるということが、新しいのちが誕生したということの意味です。

また法名の頭に「釈」という字があるのは「釈迦族の」という意味で、同族に連なる者同士という関係が開かれていきます。世間の有り様にはそれぞれに男女、老少、賢愚、また人種、民族、思想信条といった差異（ちがひ）がありますが、それらを超えて、ひとしく「念仏称えるべし」と呼びかけられる同朋・同行であることが、法名の相（すがた）によって現されています。

どうぞ多くの人が帰敬式を受けて、法名を授かってくださいますように。

完



本山HPより

帰敬式Q&A

Q. 帰敬式はどういうことをするので  
すか？

A. 帰敬式は、昔から「おかみそり」とか「おこうぞり」という名でも呼ばれています。ご本尊の前で「三帰依文（さんきえもん）」を唱和し、執行者から剃刀が三度、頭にあてられます。実際に髪を剃ることはありませんが、髪をおとすことをかたどった儀式です。

Q. 受式後は、どんな生活をしたらい  
いのですか？

A. 仏の教えを生きる依りどころとする誓いを立てたわけですから、ご本尊を安置し「お内仏」の前に常に身をおくことが大切です。朝夕に「正信偈」をお勤めし、お念仏を申すよう心がけてください。また、お手次ぎのお寺の報恩講をはじめとする法要や様々な聞法の場合に足を運んでいただきたいと思  
います。

Q. 法名はどうやってつけていただく  
のですか？

A. 「法名」には真宗本願（東本願寺）で選定された法名（本山選定法名）とお手次のお寺の住職につけていただく法名（住職選定法名）があります。帰敬式を受けようとされる際には、事前に住職にご相談ください。

Q. 帰敬式はどこで受けることができ  
るのですか？

A. 帰敬式は、真宗本願（東本願寺）で受式できます。基本的に毎日行われます。

また、各別院・教務所・お寺で受式できます。小松大聖寺教務所では、今年度は9月6日（金）に帰敬式が行われます。お手次のお寺や教務所にお尋ねください。

※小松大聖寺教区ホームページに帰敬式のことを掲載しています。是非ご覧ください。

小松大聖寺教区HP  
QRコード



# 教区帰敬式（2023年9月1日）受式者に聞きました

## 次世代に引き継ぐ

### 機会に恵まれて

小松市二ツ梨町

寺内英二さん

寺内さんは、息子さんが家を建てるにあたり、お内仏を息子さん宅に移したそうです。それは若い世代にお寺のことやお内仏のある生活を引き継いでいきたいと考えているからです。

「お寺やお内仏のある生活は日本の文化だと思いますし、自然にゆつくりと時間がながれて、それに身をゆだねるような生き方になる。そういう生き方は仏様の教えに沿うのではないかな。文化を絶やさないようにしたいので、息子にお内仏を渡せてよかったですし、気持ちも楽になりました。このタイミングで自分が帰敬式を受けるのがいいと思いました」と話してくれました。帰敬式を受けての感想を尋ねると「おかみそりを受けてひとつの区切りになったように思います。肩の荷がおりたような

心が軽くなった感じがします」と応えられました。

大聖寺地区東組の世話方をされている寺内さん。コロナ禍でできなくなっていた組講をするにあたり、段取りなど苦労されたそう。

「一度やめてしまうと、戻すのは大変。お寺の役員なども同じです。先日、他の役員と協力して、町内の門徒のみなさんを公民館に集めて話をしたんです。お寺には家族を納骨していますし、みんなを守っていくためにお寺の役員の順番がまわってきたら引き受けるということを納得してもらいました」と話されていました。

大事なものを、大事なことを若い世代に渡していきたいという思いが伝わるお話でした。



インタビューを受ける寺内英二さん

## おかみそりがずっと心に

小松市安宅町

中村敏治さん

恭子さん

中村さん夫妻は、若いときに「おかみそりは死んだ時ではなく、生きとる間にするもんや」と聞かされてきたそうです。小松市内ではよく言われていました。

そこで、三十年程前に京都へ出かけることがあり、本山でおかみそりをしようとしたのですが受付が間に合わず、受けることができませんでした。それからずっと心の隅にあり、お手次のお寺や恭子さんのご実家のお手次にも問い合わせましたが、その機会がなく時間が経っていました。今年、敏治さんの喜寿だったので、その記念に是非と受付開始の初日に教務所に申し込んだそうです。

帰敬式では敏治さんが『誓いの辞（ことば）』を読まれました。



いただいた法名は子どもたちに見せてから片付けるつもりで、手元においているそうです。本山からの法名には読み方や出典のお経、その意味などが書かれています。「意味を読んで、いい法名をいただいたなあと思います。子どもたちにも、法名を持つていることをちゃんと伝えておきます。これからの先のことを考えると、お墓のことや家のことなど娘二人と話すことはいろいろとありそうです」と恭子さんは言われていました。

帰敬式を受けて、長年気にかけていたことが一つ片付いたと笑顔のお二人でした。



「誓いの辞」を朗読する中村敏治さん

# 令和6年能登半島地震について

2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震によりまして、被害に遭われました皆様には心よりお見舞いを申し上げます。被害の把握状況と本山・教区の対応等についてご報告します。

## 【被害状況】 (2/2現在)

### (1) 能登教区 (全寺院数353カ寺)

◇確認済み寺院数349カ寺 (未連絡寺院数4カ寺)

- 被害報告が報告されている寺院数：310カ寺
  - 内、本堂の大規模被害 寺院数：72カ寺
  - 内、庫裡の大規模被害 寺院数：69カ寺
- 被害状況不明と報告されている寺院数：23カ寺
- 被害なしと報告されている寺院数：16カ寺

### (2) 小松大聖寺教区 (全寺院数128カ寺)

- 被害が報告されている寺院数：17カ寺  
(本堂の内壁破損、ご本尊倒れ、瓦・樋落下、灯籠破損・転倒、山門等の被害) ※教務所報告件数

その他、金沢、福井、新潟、京都の被害報告があります。詳細は、真宗大谷派(東本願寺)ホームページ「令和6年能登半島地震について(随時更新)」、小松大聖寺教区公式ライン等でご確認ください。

宗派として救援金を勧募しております。皆様からの温かいご支援をお願いします。

## 救援金ご協力のお願い

【救援金口座】郵便振替 口座番号 00920-3-203053

【加入者名】真宗大谷派

※通信欄に「令和6年能登半島地震」とご記載ください。

## 【小松大聖寺教区の対応】

教区役職者会議の開催 (1/5) 災害支援に関する懇談会の開催 (1/24) 教区災害対策救援本部の開催 (1/29)

- ・能登教区への見舞金100万円を決定。
- ・教区内への救援金勧募
  - ①教務所及び教務支所に募金箱を設置。
  - ②教区内寺院へ救援金振込用紙(本山の救援金口座)と募金箱を送付、救援金を勧募いただく。
  - ③各組門徒会・関係団体等においても募金の協力ををお願いをする。



各寺院・門徒会・関係団体の募金箱



各門徒会も募金の協力

## 【おてらcaféの開催】

教区ボランティア有志による、おてらcafé開催。

趣旨：加賀市・小松市・能美市などの温泉旅館に2次避難されている方々に、少しでも寄り添い、心落ち着く場を提供していきます。

第1回 2月11日(日) 13:30~16:00

会場：山代温泉 専光寺

第2回 2月22日(金) 13:30~16:00

会場：山代温泉 専光寺

第3回 3月2日(土) 13:30~15:30

会場：片山津温泉 成善寺



おてらCafé参加者の様子



第2回 おてらCaféチラシ

## 【現地の声を聴く会の開催】

趣旨：前を向いていこうとされている方々を少しでも支援したいという思いから、実際に被災されたご住職に、現地の状況や今後の課題など、生の声を聴かせていただきます。私たちができる支援のあり方を共に考え、行動していきましょう。

日時 3月6日(水)

小松会場 10:00~12:00

会場：小松大聖寺教務所 講堂

加賀会場 14:00~16:00

会場：大聖寺教務支所 本堂

講師 西山 郷光氏 (珠州市飯田町 西勝寺住職・元小松教区駐在教導)  
塚本 眞如氏 (珠州市高屋町 圓龍寺住職)  
※山代温泉旅館に2次避難されている



函かん  
蓋がい  
相そう  
称しょう

法話のページです。「函蓋相称」とは、曇鸞大師が、  
函（はこ）と蓋（ふた）がぴったり合うように、  
如来の御心と衆生が出遇っている状態を喩えた言葉。

小松大聖寺教区第2組

真成寺 杉浦真信 住職

● 懇志による教団

● 懇志による教団  
 昨年は本山にて宗祖誕生八五〇年立教開宗八〇〇年の慶讃法要が厳修されました。この法要を迎えるにあたり本山では教化事業の一つとして取り組まれた「教化伝道研修」というものがありました。この研修は全国の各教区から一人が選出され3泊4日を6回、一年半かけて行われ、私は旧小松教区から参加する機会をいただきました。コロナ禍の時期と重なり規制が多い中、遠近各地より29名が本山に集まっていたの研修でした。

本山は懇志教団と言われており、全国のご門徒さんからの浄財で成り立っています。世界最大の木造建築にも関わらず拝観料はありません。いつでも、どなたでもお参りができるのが東本願寺であります。ご門徒と言うと、お寺に住む者は含まれないと思われませんが、お寺に住む者も親鸞聖人の教えを聞く門徒の一人であります。  
 開催にあたり、研修長からは「会ったこともないおじいちゃん、おばあちゃん達や全国の多くのご門徒さんはその浄財がどのように使われているか分からないだろうが、この研修は全国の方の力により支えられている」と、言われました。現在は

小松教区と大聖寺教区は合併しましたが、両教区から納められた相続講金を使用されているのです。

● 僧伽（さんか）

この研修で最初に確認されたのは、参加した僧侶方に「あなたにとって教えは必要ですか」ということから始まり「僧伽」ということの大切さを改めて確かめていかれた時間でした。

「僧伽」という文字を見るとわからないかも知れませんが、聞いたことのあるはずで、法話の前に「三歸依文」を唱和することが多いと思います。「仏・法・僧」に帰依しますと。この三番目の「僧」が「僧伽」であります。インドの言葉の「サンガ」を音写して「僧伽」になり、文字だけを見ると現在の僧侶を思い浮かべることができるかと思いますが、そうではなく



ブッポウソウ

「教えを聞いていく人の集まり」という意味合いになります。私の中では「僧」よりも仏教の根本的な「仏」と「法」が大事だと決めつけていたかもしれませんが。「仏」「法」の二つが無ければ仏教そのものもなく真宗の教えも当然ありません。だが「仏」「法」が現在まで伝わってきた歴史を誰が証明してきたかというところ、それが「僧伽」の存在である。

安田理深先生の講義集の中に次のようにあります。「仏は助ける衆生、僧は助かった衆生である。助かった衆生がなくなるとときは、助ける仏もなくなるとときである。このように、助かったものが助けるものの現存を証明するのである」と。釈尊は教えを説き、そのお姿を仰いで領いていかれた人の言葉が事実となっていく。「教法」がどうかということが重要ではなく「僧伽」としていただいて、仰いでいかれた事実のほうがもっと大切であると教えていただきます

ました。

私達は真宗の教えに出会う前に、人として生まれてきた事実があります。詩人の相田みつをさんの「自分の番 いのちのバトン」という詩があります。

父と母で二人

父と母の両親で四人

そのまた両親で八人

こうしてかぞえてゆくと

十代前千二十四人

二十代前では・・・？

なんと百万人を超すんです

過去無量の

いのちのバトンを受けついで

いまここに

自分の番を生きている

それが あなたのいのちです

それが わたしのいのちです

## ●お講

今、私があるのはこのいのちのつながりが途切れなかったからであらう。このことは当教区におい

ては「お講」の歴史と非常に似ていると感じます。また、この

「お講」はまさに「僧伽」であります。そして、改めて実感したのは「お講」の主体が寺ではなく、ご門徒さんというのは全国に誇れることだと思います。

「僧伽」は集まりであり、一人で聞いていくのは「僧伽」とは言わないそうです。他者と共に聞いていくことが大事であり、一人で聞いていくことも決して簡単ではありませんが、一人での聞き方には蓮如上人が言われるように「得手」に法を聞く、つまり自分の都合の良い聞き方に陥り易い危険性があります。



## ●「師とは眠らせない人

### 友とは酔わせない人」

そこで「師友」と呼べる存在と出遇うことが大きな意味を持ちます。研修で講師が宮城顕氏の「師とは眠らせない人、友とは酔わせない人」という言葉を引用して、何度も繰り返し言われました。裏を返せば、私は教えに対し「分かった」と認識したらそこで歩みが止まり腰を下ろし眠りこけ、自己満足に酔ってしまいやすいのでしょうか。私の背中を叩いてくれる存在がやはり必要になってきます。「お講」では、その場に身を運ぶようきっかけを作ってください。さった方や、教えに生きる人との出会いの中で法の確かさに触れ、そして自らが導かれていく。共に教えを聞く仲間や先生と「師友」と呼び合える関係性が今まで無数に生まれ、念仏者により「お講」が守られてきました。

しかし、現実問題として、次

世代の担い手が中々見つからず今後に不安を抱えていることは事実であります。ですが、この地域では真宗の教えが間違いなく「お講」により受け継がれ、時代時代で活きた教えとして人を通して伝わってきており、この大切な場を次に引き継ぐ役割が今を生き延びる私達ではないでしょうか。この問題は単に主催されるご門徒さん達だけでなく、もつと衣を着た僧侶方も向き合っていく必要性があり、私のこれからの大事な問題として関わっていきたいと思います。

土徳的に昔から「お講」が身近にあったことに慣れてしまっているかもしれないが、県外から入寺してきた私には驚くべきことであり、それだけ大事な場であると他教区の方と交流する中でも再認識しました。

**小松大聖寺教務所 常磐会館**  
 (小松市小馬出町26)  
**聞法会**

十二日講  
 毎月12日

●午前9時30分～11時30分

4月	福井教区 託願寺	牧野 豊丸 氏
5月	能登教区 淨願寺	竹原 了珠 氏
6月	教区主事	結城 光陽 氏

日曜講座

毎月第1・第3日曜日

●午前9時30分～11時

4月		
7日	小松市 正勸寺	加藤 正現 氏
21日	小松市 遠慶寺	加藤 雅輝 氏
5月		
5日	能美市 稱佛寺	滋野井 光 氏
19日	能美市 靜光寺	伊藤 俊作 氏
6月		
2日	能美市 靜照寺	白城 真史 氏
16日	能美市 誓立寺	林 拡 氏

**真宗入門講座**

「御文」のころ

講師 出雲路 修 氏  
 (加賀市毫攝寺前住職)

●毎月第4金曜日

3/22 4/26 5/24  
 6/28 7/26 8/23 9/27

時間 午後6時～8時

持ち物 真宗聖典、念珠

会場 小松大聖寺教務所  
 (小松市小馬出町26)

聴講料 500円

問合せ 小松大聖寺教務所  
 (0761-22-0555)

**大聖寺教務支所 常葉会館**  
 (加賀市大菅波町7番1号)  
**聞法会**

示談講

隔月20日前後

●午後1時30分～3時30分

3月		
22日	小松市 淨誓寺	中谷 寧 氏
5月		
22日	加賀市 燈明寺	富樫 誓子 氏



小松大聖寺教区のホームページもご活用ください

江戸時代から続く信仰の歴史に参加してみませんか？

「蓮如上人御影道中」自主参加者募集 (申込締切 2024年4月1日)



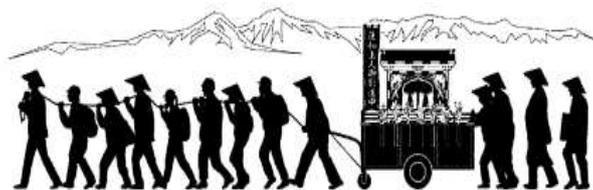
東本願寺 → 吉崎別院 (福井県あわら市)

4月17日～23日 約240km

吉崎別院 (福井県あわら市) → 東本願寺

5月2日～9日 約280km

蓮如上人による北陸教化のご苦労とその徳を偲ぶ「蓮如上人御忌法要」が、毎年4月23日から5月2日まで、吉崎別院で勤まります。ぜひお参りください。



(お問い合わせ) 真宗大谷派 吉崎別院 ☎0776-75-1904 ※左記QRコードからもアクセスできます

編集だより

今年1月1日午後4時過ぎ、能登を震源とする地震が起きました。加賀地方も大きく揺れ被害がありました。▼1月3日の中日新聞に、加賀地区の大型商業施設に水や保存食を買い込むお客さんが詰めかけたと報じていました。思い出すのは2020年に始まった新型コロナウイルスの蔓延です。当初、マスクや消毒液が不足して、多くの人が我先に買い求めていました。今から思い返せば、わずか1、2か月の事でした。▼4日のラジオ放送で、七尾市で自らも自宅が被害に遭いながら炊き出しで暖かい食事を提供している方のお話を伝えていました。▼真宗本廟において立教開宗八〇〇年の慶讃法要から早1年が経とうとしていきます。真宗門徒として宗祖親鸞聖人が顕かにされたお念仏の教えを確かめられているでしょうか。仏法という鏡に映る自身は一体どんな姿なのでしょう。か。(Y)